

エコアクション21 環境活動レポート

(対象期間：2016年10月1日～2017年9月30日)

2017年12月26日

ニッカル商工株式会社

1. 環境方針

環境理念

ニッカル商工株式会社は環境に優しいアルミニウム素材・製品の販売・加工業務を通じてかけがえのない地球環境の保全が、私たち世代の重要課題の一つであると考え、持続可能な循環型社会形成に寄与出来る事業活動を目標とします。

環境方針

1. 環境保全に関する目標を設定し、取組結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組んでいきます。
2. 資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce（廃棄物削減）, Reuse（再使用）, Recycle（再利用）に取り組みます。
3. 環境関連法規及び当社が同意した各種協定を遵守します。
4. 販売する商品に含まれる有害化学物質の使用禁止及び削減をメーカーと共に推進します。
5. 事務用品、資材等のグリーン購入に努めます。
6. 全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めるとともに、環境行動計画及びその実施状況並びに環境関連情報については、「環境レポート」に取りまとめ公表します。

制定 2012年1月16日

改訂 2013年11月27日

ニッカル商工株式会社

代表取締役社長 松下 力

2. 事業の概要

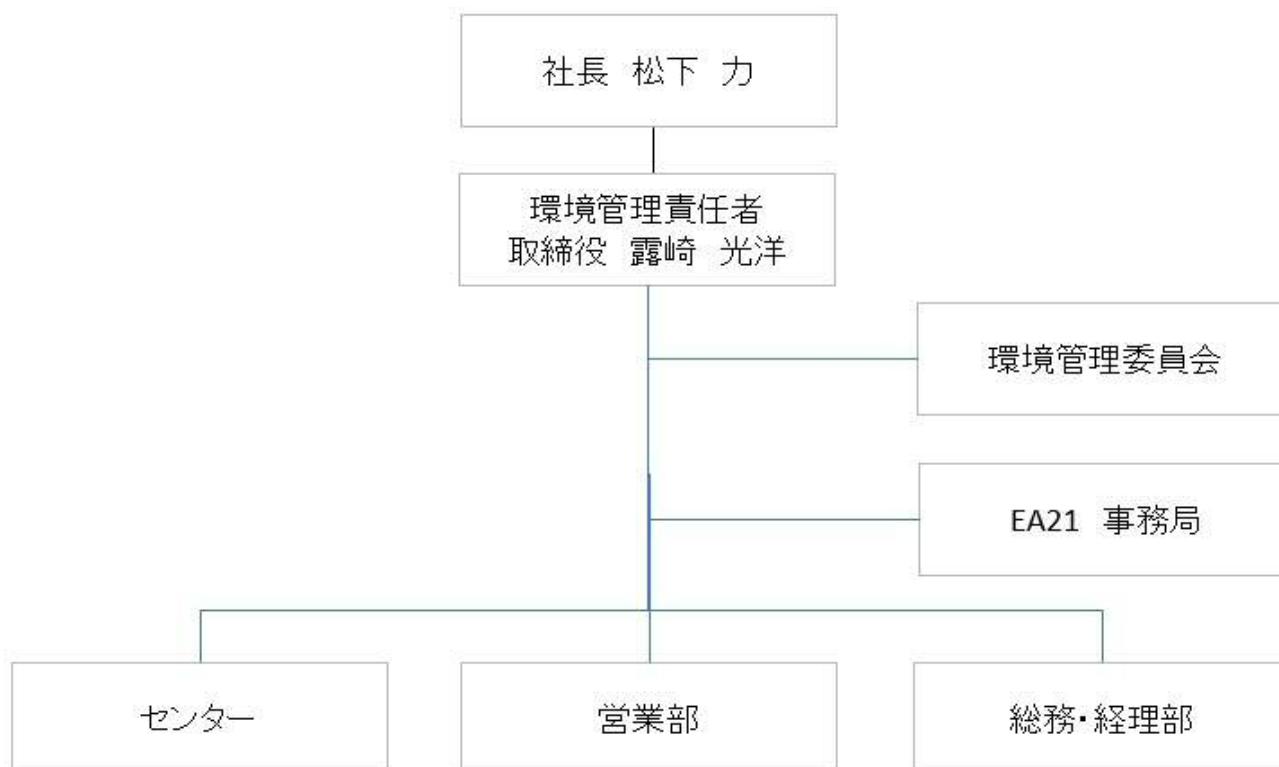
1. 事業者名 ニッカル商工株式会社
2. 所在地 東京都大田区東糀谷 1-8-19
3. 環境保全関係の責任者及び連絡先
環境管理責任者： 取締役 露崎 光洋
連絡先： TEL 03-5735-2970
FAX 03-5735-2971
E-mail m_tuyu@nikkal.net



4. 事業の内容 アルミニウム圧延品・その他非鉄金属材料の販売および加工
5. 事業の規模

事業年度	2015年度	2016年度	2017年度
従業員	24名	25名	22名
事業所床面積	1420 m ²	1420 m ²	1420 m ²

3. 環境管理組織



4. 環境への負荷の現状と環境目標

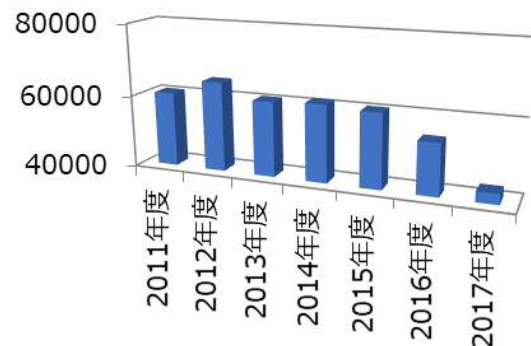
環境負荷別項目		前年度実績	2017年度目標		運用期間実績		次年度		次々年度
		2016年度			2017年度	前年度比	2018年度目標		2019年度目標
	単位	実績	目標策定基準	目標値	実績	増減率	目標策定基準	目標値	目標策定基準
電気使用量	kWh	54250	2016年度 実績-1%	53708	42884 対目標 ○	-21.0%	2017年度 実績-1%	42456	2018年度 実績-2%
ガス使用量	m ³	56	2016年度 実績の維持	56.0	56.0 対目標 ○	±0%	2017年度 実績の維持	56	2017年度 実績の維持
ガソリン	ℓ	5304	2016年度 実績-1%	5251	5163.3 対目標 ○	-2.7%	2017年度 実績-1%	5111	2017年度 実績-2%
軽油	ℓ	7905	2016年度 実績-1%	7826	6856.8 対目標 ○	-13.3%	2017年度 実績-1%	6788	2017年度 実績-2%
上下水道使用量	m ³	325.5	2016年度 実績-2%	319	326.5 対目標 ×	0.3%	2017年度 実績-1%	324	2017年度 実績-3%
CO ₂ 排出量 ※1	kg-CO ₂	60573	2016年 実績-1%	59967	51541 対目標 ○	-14.9%	2017年度 実績-1%	51025	2017年度 実績-2%
一般廃棄物排出量	kg	3202	2016年度 実績-1%	3170	2450 対目標 ○	-23.5%	2017年度 実績-1%	2426	2017年度 実績-2%
有害化学物質の管理		顧客より有害化学物質の非含有証明書の提出を求められた場合、要求期日以内に対応する							
グリーン購入(アスクール購入品) (グリーン年間購入金額割合)	%	45.9%	2016年度 実績の維持	45.9%	55.6% 対目標	9.7%	2017年度 実績の維持	55.6%	2017年度 実績の維持
職場環境の改善「有給取得率の向上」 ※2	%	-	-	-	38.8%	-	全国平均値	48.8%	50%

※1 2017年度 CO₂ 排出係数 電力0.5 都市ガス 0.0509 ガソリン 0.0671 軽油 0.0687

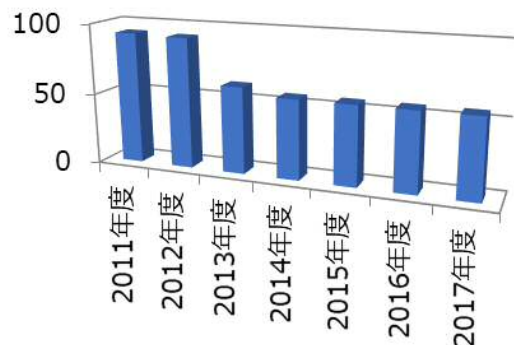
※2 2018年度より有給休暇取得率の向上を目標値に追加しました。

5. 環境活動の取組み結果の評価と見直し

電気使用量 (kwh)



ガス使用量 (m³)



・電気使用量の削減

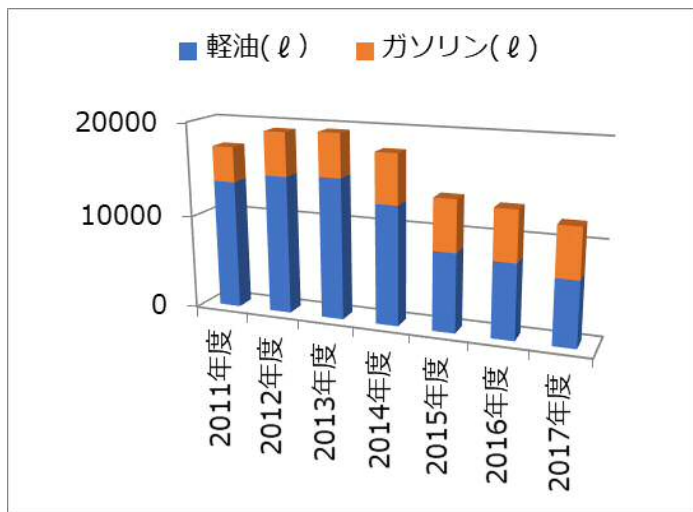
2017年度の電気使用量は前年度より21%削減の42,884kwhという結果となりました。加湿器を沸騰式からミスト式に変更したことや1階配送センターと2階事務所の蛍光灯をLED化するなどの取り組みが大きな削減効果に繋がりました。2018年度も引き続き電気使用量を削減できるよう社内啓蒙活動を行います。

2018年度電気使用量の目標は2017年度実績から1%削減の42,456kwhとします。

・ガス使用量の削減

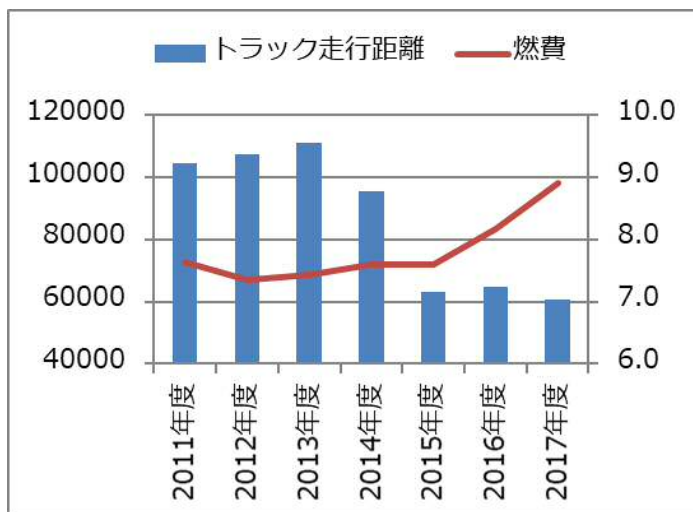
ガスの使用量は、4年連続の56 m³ (±0%)の結果となりました。ガスの使用はほぼ給湯器です。お湯を使わない時期や給湯器の電源を入れない時間を伸ばすなど無駄遣いしないように徹底されており、活動開始後最小の使用量が維持されてます。引き続き今回の使用量を維持するべく啓蒙を行います。

2018年度の目標は、2017年度の結果の維持を目標とします。



・ガソリン・軽油使用量の削減

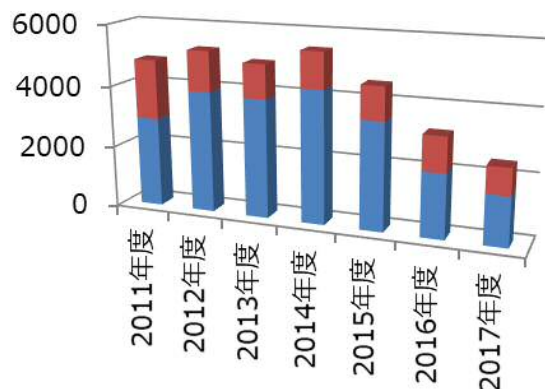
ガソリン使用量（営業車使用）は、2016年度より140リットル減り対前年比2.7%の削減となりました。業務効率化を進める中で3月より営業車を1台減車いたしました。軽油の使用量は2016年度より1048リットル減り、対前年比13.3%の大幅削減となりました。配送効率の見直しにより年間の配送距離が6%程度短くなったことや2016年度中にハイブリッド車に入れ替えたことにより燃費向上が削減効果につながりました。引き続き定期点検整備やエコ運転の啓蒙を続け、車両入れ替え時は燃費の良い車両するなどの使用量の削減に取り組み、燃料の効率的な使用を心掛けます。2018年度のガソリン、軽油の使用量の目標は、前年度比-1%と致します。



・トラックの燃費

自社配送トラックの走行距離は前年に比べて5.8%減少の60786kmとなりました。燃費は8.5%向上の8.9km/ℓとなりました。配送効率の見直しや配送の外部委託をフル活用することにより走行距離、軽油使用量が大きく削減されてます。2018年度も従来のエコ運転啓蒙活動、配送効率の見直し、車両入れ替え時はハイブリッド車に入れ替えるなどさらなる燃費の向上に努めます。2018年度は9.0km/ℓを目指します。

■ リサイクル紙ゴミ (kg) ■ 一般ゴミ(kg)

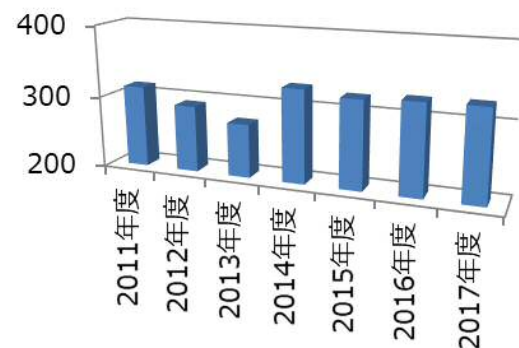


・一般廃棄物排出量の削減

2017年度の一般廃棄物の総排出量はで2450kgとなり、前年より22.7%の減少と2年連続の大幅削減となりました。旧文書の処分が一段落したことに加え、会議資料等社内文書の電子化によるペーパーレス化がより一層進みました。配送センターでは梱包資材の再利用を進めるなど紙ごみの削減に努めました。一般廃棄物の大半は紙ごみで種類ごとに紙を分別し計量後、古紙回収業者に引き取りをお願いしています。残りは1Fと2Fの事務所から排出される一般廃棄物です。廃木材(緩衝材)は引き続き引取り可能分についてはメーカーに引取りをお願いしています。

2018年度目標は文書のペーパーレス化を進め2017年度実績値の-1%(2426kg)を目指します。

水道使用量(m³)



・水道使用量の削減

水道の使用量は、2016年度比で0.3%増の326.5m³となりました。2014年度以降ほぼ横ばいの使用量が続いています。2018年度は従来の取り組み(節水の社内啓蒙活動の強化、水漏れのチェック、節水バルブによる水道の流量の調整等)に加え、老朽化した水道設備の更新時には節水タイプのものを選択する等、ハード面の見直しにも取り組みたいです。

2018年度の削減目標は2017年度結果-1%、324m³を目標とします。

6. 主要な環境活動

取組項目	活動概要	評価	評価内容
電気	<ul style="list-style-type: none"> ① 就業時間前後の空席エリアの消灯をする ② 電気ポットは17時30分にOFF ③ 設備更新時には省エネ型機器・設備の購入 ④ 蛍光灯は、省エネタイプに順次切り替える ⑤ 冷暖房使用時の温度設定を夏は28℃以上、冬は22℃以下に設定する 	◎	配送センターの照明器具を水銀灯から蛍光灯に切り替えたことに加え2F事務所等の蛍光灯をLED化したことが大きく削減効果につながった。
ガス	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ ガス給湯器は必要な時のみ使用する ⑥ 給湯器の使用時間の制限（～17：30） ③ 給湯器の温度設定を最低温度に設定する 	○	給湯器は37度設定を維持されている。
水道	<ul style="list-style-type: none"> ① 節水の注意書きを貼る ② 節水コマを設置し、水の流し過ぎの無駄を抑制し節水に努める ③ 水漏れ箇所の点検・修繕 	△	ほぼ横ばいの使用量が続いている。社内の見回り点検、社内啓蒙を継続して行っているが削減にはいたらなかった。
ガソリン 軽油	<ul style="list-style-type: none"> ① エコ運転の推進（継続） <ul style="list-style-type: none"> Ⓐ 荷物は最小限とし、余分な荷物は降ろす Ⓑ タイヤの空気圧は常に最適を保つ Ⓒ 急加速、急停車をしない Ⓓ 定速運航の励行する Ⓔ エアコンの使用を控える Ⓕ アイドリングストップを励行する Ⓖ 十分な車間距離を保つ ② 入れ替え時は省エネ車両の導入を推進する 	◎	2016年度中に3トンハイブリッドトラックやPHEV営業車に入れ替えた他、営業車の減車や配送効率の見直しをした。
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ① 廃棄物排出量の計測 ② 分別を徹底し、資源化・再利用を優先として区分し、廃棄処理を行う ③ 長期保存書類・包装紙・ダンボールについては再資源化を優先し、廃棄物の削減を推進 ④ 鉄屑・アルミ屑・端材は、再処理業者へ引き渡すなど、再資源化に努める 	◎	廃棄物の分別、再利用は徹底されている。また、社内のペーパーレス化がより一層進んだ。
物質投入	<ul style="list-style-type: none"> ① 不用コピー用紙のリサイクルボックスによる資源回収・再利用 ② メール活用によるペーパーレス化 ② 両面コピー・印刷の徹底 ④ 縮小コピーによる使用枚数の削減 	◎	複数枚をまとめた印刷や電子媒体を活用したペーパーレス化、裏紙の再利用など省資源化が徹底されている。

7. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

当社に関連する法規一覧

法規制	適用内容	評価
廃掃法 (東京都廃棄物条例・規則)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物処理事業者との契約の締結 (その際 事業許可証の確認) ・ マニフェスト管理(産業廃棄物排出時) 	○
下水道法	特定施設なし 総排水量 日量 50 m ³ 以下 適用除外	—
RoHS 指令	<ul style="list-style-type: none"> ・ 得意先要求が有った場合、メーカーから特定の化学物質含有情報シートを取得し得意先に提出 	○
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル料金の支払い ・ 引き取り事業者への引き渡し 	○
小型家電リサイクル法	指定小型家電製品の適性な回収処理	—
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル税の支払い ・ 引き取り事業者への引き渡し 	○
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的なエアコンのチェック 	○
東京都環境確保条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディーゼル車の排出ガス規制 ・ アイドリングストップ 	○

※環境関連法規制／その他要求事項について

その他環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直し

2017 年度のエコアクション 21 活動は非常に良い結果で終わることができました。

Co2 排出量は 2016 年度比 14.9%と大きく削減することができました。電気の使用量については節電の啓蒙活動に加え、配送センター及び事務所の蛍光灯を LED 化することで、21%削減することができました。ガソリン、軽油使用量はハイブリッド車、PHEV 車の入れ替えや効率の良い配送ルートの見直しなど取り組みました。一般廃棄物も文書のペーパーレス化が進み 23.5%の削減につながりました。一方で水道の使用量が横ばいの状態が続いております。組織の取り組みだけでなくハード面の見直しも必要であると感じます。

当社はこれからも事業活動を通じ地球環境に調和した体制作りを進めて参ります。